

教科目名 トライボロジー (Tribology)

学科名・学年 : 機械工学科 5年 (教育プログラム 第2学年 ○科目)

単位数など : 選択 1単位 (後期1コマ, 授業時間 23.25時間)

担当教員 : 伊東 徳

授業の概要			
トライボロジーは流体力学, 材料, 化学, 物理などの境界領域に属する分野の学問であり, これらの領域の基礎知識を理解する. 摩擦研究の歴史, 凝着摩耗における移着成長論, アブレップ [®] 摩耗, 流体潤滑などの基本について理解する. 将来, トライボロジーの知識を機械設計に生かす基本知識を身に付ける.			
達成目標と評価方法		大分高専目標 (B2), JABEE 目標 (2.1③)	
(1) 摩擦の機構や摩耗の種類及びその特徴を把握する. (定期試験とレポート)			
(2) 潤滑形態と摩擦状態の関係を理解する. (定期試験とレポート)			
(3) 軸受潤滑の基礎知識をつける. (定期試験)			
(4) 課題を通して理解を深めるとともに, 自主的かつ継続的な学習が出来る. (課題)			
回	授 業 項 目	内 容	理解度の自己点検
1	第1章 表面・接触・摩擦	○固体摩擦は凝着説と凹凸説があつて長い対立をしていた背景を理解する. ○クーロンの法則, 初期摩擦と定常摩擦, 繰り返し摩擦と非繰り返し摩擦の違いなどについて学ぶ.	【理解の度合い】
2	1.1 固体表面の性質		
3	1.2 二表面の接触と真実接触面		
4	1.3 摩擦の歴史		
5	1.4 摩擦の機構	○境界潤滑及び混合潤滑状態の特徴を理解する.	【試験の点数】 点
6	第2章 境界潤滑と混合潤滑		
7	2.1 境界摩擦の機構		
	2.2 表面温度と境界摩擦	○油性剤や極圧添加剤の目的と摩擦緩和のメカニズムを理解する.	【試験の点数】 点
	2.3 境界摩擦と混合潤滑		
8	後期中間試験		
9	後期中間試験の解答と解説	○凝着摩耗やアブレップ [®] 摩耗のメカニズムの違いを理解する. ○繰り返しを伴うか否かで初期摩耗から定常摩擦への移行が大きく影響されるメカニズムを理解する. ○鉱油, 合成油などの種類とその特徴を理解する ○レイノルズ基礎方程式を使って流体潤滑下	【理解の度合い】
10	第3章 表面の損傷		
11	3.1 摩耗の種類		
12	3.2 表面疲れ		
13	第4章 潤滑油		
14	3.4 潤滑油の種類と性状		
15	3.5 レイノルズ基礎方程式		
	後期期末試験		【試験の点数】 点
	後期期末試験の解答と解説		
履修上の注意	講義中に分からなければその場で分かるまで粘り強く質問すること.		【総合達成度】
教科書	佐々木信也 志摩政幸 野口昭治 他 「はじめてのトライボロジー」, 講		
参考図書	佐藤健児編著, 「金属の摩耗とその対策」, 養賢堂 松永正久監修, 津谷裕子編集, 「固体潤滑ハンドブック」, 幸書房		
自学上の注意	授業中の課題, 配布資料の要点をまとめてノートに整理すること.		
関連科目	材料力学Ⅱ, 材料学Ⅱ, 材料力学演習, 材料強度学 (専攻科), 塑性加工学 (専攻科)		
総合評価	達成目標の(1)~(4)について, 2回の試験と課題で評価する定期試験の成績(90%)およびレポートの提出(10%)により評価する. また, 総合評価が60点以上を合格とする. 再試験は総合評価が60点に満たない学生に実施する. ただし, 課題をすべて提出した学生を対象とする.		【総合評価】 点